津田塾大学学芸学部多文化・国際協力学科
「フィールドから学ぶ」シリーズ

グローバルヘルスと女性の健康

妊産婦死亡を超えて



講師：藤田 則子 氏
（長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授）

日時：2026年12月25日（金）10:30－12:00

場所：津田塾大学小平キャンパス　5101教室

※グローバルヘルス（4）の講義中に実施します。受講生以外の方のご参加も歓迎します。

グローバルヘルスの中心テーマの一つは長らく「母子保健」であるが、「母」ではなく「女性」の健康の課題に焦点が当たるようになったのは実は「子」より後のことである。2000年の国連ミレニアム開発目標（MDGs）で初めて女性の健康課題が取り上げられ、妊産婦死亡の削減（妊娠や出産が原因で死亡する女性を減らすこと）が、国際社会が協力して取り組むべき目標の一つとなった。

妊産婦死亡は、医学的な原因だけではなく女性の置かれた社会的要因が大きな影響を与えており、「3つの遅れ」として提唱されている。2015年までのMDGsの時代における妊産婦死亡の削減に向けた国際的な流れと開発途上の国々での取り組みを事例として取り上げ、2015年からの持続的な開発目標（SDGs）でのライフコースにおける女性の健康課題への変遷を考えてみたい。



藤田 則子　NORIKO FUJITA

長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授。医学博士（慶応義塾大学）。東京医科歯科大学卒業後、産婦人科医として勤務。フランス・ニース大学医学部大学院、およびタイ・マヒドン大学においても熱帯医学衛生学を修める。JICAカンボジア母子保健プロジェクトの専門家として参加し、その後、国立国際医療研究センターで母子保健分野の国際協力の活動を続けた。カンボジア、アフガニスタン、仏語圏アフリカ諸国等で女性の健康課題や保健人材に関する技術協力など、様々な活動実績をもつ。

主催　津田塾大学　多文化・国際協力学科